

県立田部高等学校の概要

本校は、下関市菊川町に位置し、各学年普通科１クラス（定員40名）、総合生活科１クラス（定員40名）で、全校生徒約240名が在籍する学校である。

教育課程では、少人数編成の授業や習熟度別の授業を取り入れ、普通科では進路希望に合わせた選択科目を開設するなど、きめ細かな編成を行っている。また、総合生活科では２年生から生活デザインコースと食物・福祉コースに分かれ、より専門的な学習を行う編成となっている。

生徒の進路先は、進学する者と就職する者がほぼ同数であり、ほとんどの者が地元・近郊の学校や企業に進学または就職している。

キャリア教育の効果的な指導内容・指導方法の充実・改善

【取組内容】

1 総合的な学習の時間（CAP）

「総合的な学習の時間」をキャリア教育に取り込む時間と位置付け、キャリア・アクセスプラン（CAP）と名付けたプログラムに従って、教育活動に取り組んでいる。

各学年のテーマは、１年生が「情報収集と自己理解」、２年生が「キャリア育成と進路目標設定」、３年生が「社会理解と自己実現」と設定している。

年間約35時間の内、教室での活動の時間が3分の2、その他の講演や進路説明会等の時間が3分の1の割合となっている。



CAPの時間（教室）２年生

（１）教室での活動

本校の取組の特徴は、既成のクラスを、さらに少人数に分割し、その小グループを一人の教員が受け持っていることである。活動は、学校が用意した「進路ノート」に沿って進められており、21年度からは、それに加えて、生徒の実態に合った自主教材を学年ごとに作成している。より取り組み易い内容となったことにより、生徒の活動もより積極的になってきている。

1、2年次にはクラスを半分に分けた20人を単位として活動している。

1年次には、生徒は進路についての基礎的な知識や情報収集の方法、自分の適性などを学習し、2年次では、1年次での活動をもとに、自己理解や進路研究を深めることに取り組んでいる。自主教材としては、受験報告書等を活用し、今の自分に欠けている所を洗い出す作業を通じて進路実現へ向けての具体的な行動を促している。

さらに、いずれの学年においても、グループ活動をする場面を設定したり、インターンシップ等の体験発表をしたりすることなどにより、知識だけではなく、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力などの育成にも役立てている。

3年次では、学年全体を進路志望別に5クラスに分け、それぞれの進路に応じた教材を用意して活動している。さらに10月中旬からは進路決定状況に応じて4クラスに分けて、生徒各自の課題に取り組ませている。

例えば3年生就職決定者については、人前での発表等の時間を多く取り入れ、コミュニケーション力、文章表現力、会話表現力を育成し、さらに、マナー等を互いに指摘し合うことなどにより、社会生活への円滑な適応ができるような工夫をしている。また、就職未決定者については夢の実現に向けてあきらめずに努力することの大切さや勤労の貴さを綴った書籍の輪読や感想の発表を通じて、就職活動に対する積極的な

姿勢が保てるように支援している。

（2）校内での講演等

ア キャリア講演会（全校生徒）

講師：外部機関のキャリア指導講師

社会の動向や社会が求める人材について、具体的な事例をあげて説明を受け、社会・職業への円滑な移行のためには高校生活というライフステージで何を養い準備すべきかを学んでいる。

イ マナー・アップ講習（1年生）

講師：地元企業の経営者

高校生活の早い時期に、TPOに合った適切な表現、身だしなみ、礼儀作法等の指導を受けることによって社会生活での円滑な人間関係構築のための基本的なマナーについて演習形式で学んでいる。

ウ 国際理解講演（1年生）

講師：海外での就業体験者

海外での活動の様子や国際社会の現状を知ることによって、国際感覚を養うとともに、豊かな勤労観・職業観の育成を図っている。

エ 出前講義（1・2年生）

講師：進路希望調査をもとに招へい

四年制大学より 4名

短期大学より 2名

専門学校より 16名

自分の興味や志望進路に合った学問または、職業についての講義を実際に受けることによって、進路意欲が高まるとともに、新たな進路情報を得ることができている。

オ 3年生による体験発表会

四年制大学・短大・専門学校・就職への進路が決定している3年生が1・2年生に対して、自分の体験をもとに励ましのメッセージを送る会である。

受験を通じて感じたことや、高校生活で頑張ったこと、下級生にぜひ伝えたいことなどを語りかけている。下級生にとっては先輩から励ましの言葉をもらうことによって、進路実現に向けてモチベー

ションが高まるとともに、田部高生としての一体感や帰属意識が醸成されている。3年生にとっては、多くの聴衆の前で語る経験は今後の社会生活で役立つと思われる。



3年生による体験発表会

（3）校外での活動

ア 進路相談会（全校生徒）

外部の専門機関と連携し、本校の実状に合ったプログラムになるように担当者との検討を重ねた上で、これまででは、次のようなコーナーを設けて実施している。

- ・学校説明コーナー
- ・職業体験コーナー
- ・就職支援コーナー
- ・面接指導、小論文指導コーナー

生徒は自分の興味・進路に合わせて各コーナーに自由に参加できるようにしており、自分の進路決定ができていない生徒にとっては進学・就職の両面で、専門的なアドバイスを受けることができるため、各自の将来設計に大いに役立つものとなっている。

イ 企業訪問（1・2年生）

1年生は製造業（普通科は装置関係・総合生活科は被服関係）、2年生は学年をグループに分け4つの企業を訪問している。実際に現場で働いている人からの話を聞くことによって、勤労観・職業観が育成されるとともに自分の適性を考える機会が与えられる。また、3年生のCAPのテーマの一つである社会理解にも結び付けている。

2 特別活動：ロングホームルーム

(1) 人間関係づくり（全校生徒）

人間関係形成能力は社会で最も求められる力の一つである。本校はクラス替えがないため、とりわけ、円滑な人間関係が重要となり、他者を受容する能力が求められる。そのため、学年・全校一斉での「人間関係づくり」「仲間づくり」の演習を行っている。平成21年度は、クラス単位で「アサーショントレーニング」演習なども取り入れ、他者受容力の向上を図っている。



人間関係づくり演習

(2) 情報モラル講習（全校生徒）

講師：外部機関情報担当者

携帯電話やインターネット上でのマナーやトラブルへの対処方法を具体的な事例をもとに学習し、実生活で役立つ内容となっており、人権意識の向上にも寄与している。

3 その他の生徒の活動

(1) インターンシップ

インターンシップは平成20年度から行っており、2年生の就職希望者等を対象とし夏期休業中に実施している。20年度は最大3日間の実施であったが、21年度は5日間実施できた企業もあった。また、21年度は生徒の受入の依頼を学校が行い、それ以後の交渉は生徒が自分で受入先と連絡を取りながら行うように改めた。また、インターンシップ日誌を毎日企業の担当者に提出させることで自分の行動を反省し、責任感の向上を図ることとした。

(2) ボランティア

家庭クラブ活動の一環として学校が幹旋する形で、夏期休業中及び10月に保育園・老人ホーム・福祉施設等で施設職員の補助等の活動を行っている。平成21年度からはボランティア記録簿を生徒に持たせ、生徒がそれに記入し、自分の活動を思い起こすことにより、自己肯定感の涵養、社会参加意欲の向上を図っている。

ボランティア記録簿

山口県立田部高等学校 家庭クラブ
ボランティア記録簿

○/年○月○日～年○月○日
総合生活科/年○組○番

氏 名 _____

<ボランティア 記録簿>

月 日	内 容	時 間
8月9日	夏祭りの手伝い、お年寄りの話し相手	7
8月13日	(中村さん家)ご飯の用意、お年寄りの話し相手	8
8月14日	(中村さん家)	8
8月25日	(ライオン)各部屋の掃除、お風呂介助 など	7
8月26日	(ライオン)お風呂介助、話し相手、掃除(トイレ)	7
8月27日	(ライオン)お風呂介助、話し相手、掃除(トイレ)	7
合計 (44) 時間		

(3) 朝の読書・全校一斉漢字テスト

朝の読書は、毎朝10分間本を読むことによって読書習慣を身に付け、生徒の生涯学習の土台を形成することに加え、落ち着いた一日をスタートさせることにも役立っている。

全校一斉漢字テストは、毎週水曜日に事前に決められた範囲のテストを実施しており、定期的に定着状況を確認するテストなども実施している。

(4) 教科の学習の中での取組

家庭や福祉の授業では、勤労観・職業観の育成に直接結び付く現場での活動や実習、さらに、資格取得の取組などが行われている。

・町内の企業、病院、保育園、福祉施設の職員から働く人の声を取材。

- ・服飾、介護、調理、医療の各分野の専門家を招いての実技講習。
- ・総合生活科福祉コースの生徒を対象として、ホームヘルパー2級取得のため介護実習。



福祉実習

4 教員の資質向上のための取組

（1）校内体制の状況

各分掌の長で構成されるキャリア教育推進委員会で、学校全体のキャリア教育の実施計画が策定されている。この計画の下で、各学年団が学年ごとにさらに詳細な計画を立てて、具体的な指導に取り組んでいる。

（2）教員研修の状況

キャリア・カウンセリングなどの生徒を実際に指導するための方法や、人間関係づくりなどのコミュニケーション能力を高めるための方法など、実際の生徒指導の場面で役に立つ研修を多く計画してきた。その結果がLHRや面談等の中で生かされている。

また、校外においては、キャリア教育先進校視察やキャリア教育指導者養成研修などに参加した者が、その内容を校内で復伝し、校内のキャリア教育で生かせる取組や内容などは、CAPの時間等に取り入れた。

5 保護者に対する働きかけ

保護者に対しては、生徒の進路を考える上で必要となる、様々な基礎知識を提供することを中心に取り組んできた。

その中には、外部講師が進学費用や奨学金の利用について具体的な事例をあげて説明し

提案を行った「進学のためのマネープラン」の講演会などがある。

また、3年生の就職希望者と保護者を対象とした、ハローワーク職員による求人状況の説明や就職指導専門員による就職試験に向けての実践的な講話などの「就職説明会」なども実施した。

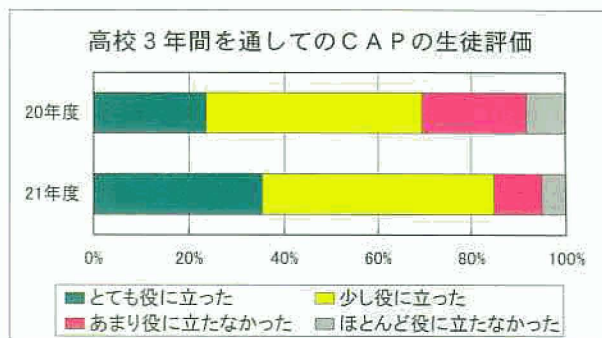
その他、進路指導課が2か月に1回発行している「キャリア通信」の中では、CAPの時間の活動内容の紹介やキャリア関連の行事の報告に加え、現在の雇用情勢や職業人として求められる力について具体的に解説するなど、保護者のキャリア教育に対する理解と進路に関しての情報提供などに努めた。

【成果】

1 総合的な学習の時間（CAP）

各クラスごとの指導については、生徒の8割以上が「役に立つ」と評価していることが事後のアンケートから分かる。

また、「進路講演会」などの行事は、毎年ほぼ全員の生徒が「役に立つ」と答えている。3年生の生徒の高校3年間を通してのCAPに対する評価は、昨年より高くなっている。



生徒の進路決定に向けた意識は変化してきている。現2年生は10月時点で、すでに全員が自分の進路を決めており、具体的に進路先を絞り込んでいる生徒も7割を超えている。本事業の指定を受けた当時、4月当初に進路未決定の3年生が約半数いたことに比べると、格段の前進をしたといえる。これは、CAPの時間の進路学習が定着してきたことや、講演会等を通して学習した社会情勢の理解により実社会の厳しさを認識できたことな

どから、生徒の進学や就職に対する目的意識が高まった結果と考えている。

2 特別活動

LHRでの人間関係づくりの演習では、一定の効果が上っていると考えている。現在の生徒たちは、実際の人間関係について学ぶ実地体験の場が少なくなっているが、具体的な演習を行うことにより、他者との円滑な人間関係を形成する力がついてきているようである。ここ数年、人間関係のトラブルによる不登校・退学は減少している。

3 その他の活動

インターンシップは、生徒たちが実社会の厳しさや労働の尊さを知るよい機会となっており、参加生徒の就労意識は確実に変わってきている。

ボランティア活動については、年々参加者数が増加しており、平成19年度は延べ数で65名、20年度が81名、21年度が89名である。延べ数では全校生徒の3分の1以上が参加している状況である。こうした経験が、ボランティア意識の醸成だけではなく、コミュニケーション能力の育成にもつながることが、多くの生徒の活動後の感想から見て取れる。



インターンシップ

朝の読書・全校一斉漢字テストは、全校での取組として定着してきた。学校生活により効果をもたらしていると考えている。

教科の学習の中での取組では、家庭や福祉教科の中で外部の職業人と接する機会が多く設けられていることにより、社会や職業理解の深化、さらに、資格取得への意欲を高めるな

どの効果があったと考えている。

4 教員の資質向上のための取組

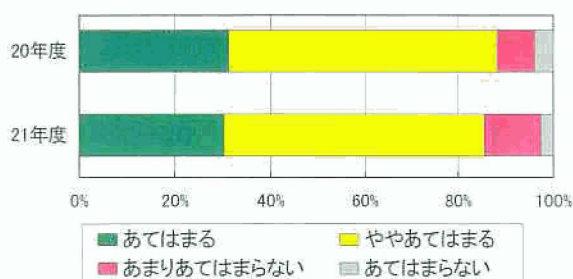
この3年間での教員研修を通じて、キャリア・カウンセリングやコーチングの技術、性格・適性検査の利用方法を学んだことなどにより、平成21年度は、従来キャリア・カウンセラーによって行われていた性格・適性についてのテストや演習を教員が行えるようになり、面談の技術なども向上してきた。

また、21年度から、教室でのCAPの時間の運営を学年主導としたことから、個々の教員の工夫が生かされるようになり、各学年とも事前、事後の検討会が積極的に行われ、実効性のある授業内容となるよう工夫が進んでいる。

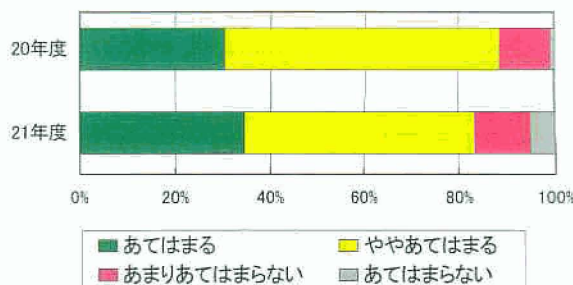
5 保護者に対する働きかけ

「学校はきめ細かな進路指導をしているか」という問いに対しては、平成20年度、21年度とも「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計は80%を超えている。「子どもの進路意識が向上しているか」についても同様の結果が出ている。このことから、本校のキャリア教育への保護者の評価はおおむね良好であると思われる。

「きめ細かな進路指導」に関する保護者評価



「子どもの進路意識の向上」に関する保護者評価



【課題及び今後の取組】

1 現在の課題

この3年間で生徒の進路意識は着実に向上しており、特に進路決定に対する姿勢は前向きになってきている。しかし、進路実現に向けての生徒自身の積極的な取組には課題があり、学校がやってくれるといった意識をもっている生徒も多く、生徒自身の積極的な活動が加われば、より高い進路目標が達成できると考えられる生徒も少なくない。

インターンシップやボランティア活動など、様々な社会とのかかわりを通じて自己肯定感が育成できるような機会も設定しているが、今ひとつ自信をもつまでは至っていない生徒も見られる。生徒が、より主体的に行動する力を付けることが課題である。

生徒の主体性を引き出すための取組については、教員が意図的に仕組むことが必要となることから、目的意識をもった校内の教員研修を継続していくことが求められる。



出前講義

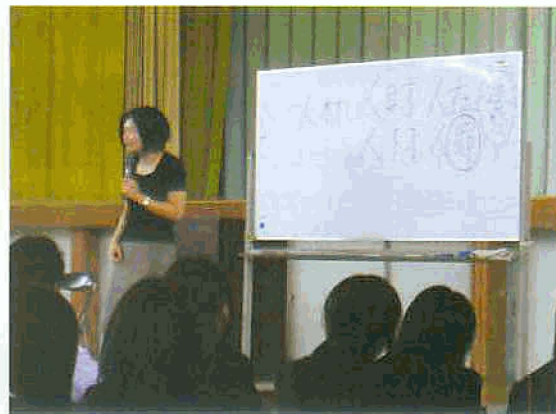
2 今後の取組

本校独自の形態として出来上がったCAPの取組は継続し、その内容については、生徒の主体的な活動を取り入れた仕組みを工夫していくことが重要と考えている。そのためには、CAPの時間が、生徒にとって単に情報を与えられるだけの場ではなく、自らテーマを設定し、探究していく場となるよう、実施方法を工夫していきたい。

講演会や説明会等も単発的なものではなく、CAPの時間などでフィードバックし、生徒の活動に連続性がもてる内容のものを開

催したい。

3年生による体験発表会などの企画は、生徒のモチベーション向上のために効果があると考えられるので、事前の質問アンケートを実施するなどしてより充実したものに改善したい。また、卒業生の社会人や上級学校生を囲む会も実施したい。



キャリア講演会

キャリア・カウンセラーの活用の在り方

本校では、本事業の指定を受けてから、全学年の生徒の進路相談に対応する方（校内での名称：キャリア・カウンセラー）と、3年生の就職希望者の支援にあたる方（校内での名称：就職指導専門員）の2名を置いている。

【概要】

1 募集方法及び求める人材像

ハローワークで求人を行い、面接を実施して決定した。

キャリア・カウンセラーはキャリア教育に対し専門的知識を有する人材、就職指導専門員は地元企業の状況を熟知し実社会と生徒との橋渡しができる人材を募集した。

2 校務分掌上の位置付け及び配置場所

両名とも進路指導課内に位置付け、生徒との個別の相談や面接が実施することのできる部屋に常駐することとした。

3 活用回数及び活用方法

(1) キャリア・カウンセラー

平成19、20年度は、年間25回で週1日常駐する形態とした。（21年度は年間8回）

カウンセリングの対象は、全学年生徒とし、学級担任と連携をとりながら、自発的な相談を原則として開始した。平成21年度は1年生全員がカウンセリングを受けるように学年で計画を立て、自発的な相談と並行して活用している。

（2）就職指導専門員

平成19年度から、週2回、年間70～80回の来校とした。

カウンセリングの対象は、就職希望の第3学年の生徒とし、学級担任や進路指導課とも連携をとりながら、生徒が自分の適性や条件にあった企業を決定することを目指した。



施設実習

【活用状況】

1 生徒の相談状況

（1）キャリア・カウンセラー

個別の相談件数は、平成19、20年度は、自由面談で、それぞれ20名程度であった。21年度は面談計画を立て、10月までに1年生を中心として約30名のカウンセリングを実施している。

（2）就職指導専門員

この数年間、3年生を中心に年間延べ約100名の生徒が相談を受けている。

2 教員の活用状況

（1）キャリア・カウンセラー

教員対象のキャリア・カウンセリングの方法と生徒の性格・適性についての研修講師を依頼するなどした。

（2）就職指導専門員

進路指導課の就職担当と連携のもとに、

地元企業と学校とのパイプ役も果たしている。（求人開拓、職場訪問日の調整）

3 その他

（1）キャリア・カウンセラー

CAPの時間に1・2年生を対象にした性格・適性テスト、演習を実施し、自己理解の促進を支援している。3年生に対しては卒業後社会で必要となる法律や社会保険の基礎知識についての講話を実施している。

（2）就職指導専門員

3年生の就職希望者と保護者を対象とした就職説明会での講師を務めた。

【成果】

1 キャリア・カウンセラー

進路決定に悩む生徒に対して、専門的な知識や技能を生かして生徒の適性について適切なアドバイスを与え、また奨学生制度の利用方法を具体的説明するなど、生徒にとってよりよい進路選択を促す指導を行っている。

教員対象の研修や、CAPの時間での性格・適性テスト及び解説の参観により、教員のカウンセリングの技術が向上した。

2 就職指導専門員

多くの就職希望の生徒の相談に対し、地元企業の状況を説明しながら、生徒の希望する職種の企業等を具体的に紹介していただくとともに、地元企業の訪問なども精力的に行っていた。昨年度就職が決定した生徒の約4割弱は、就職指導専門員の援助を受けながら決めることができたものである。



進路相談会

【課題及び今後の取組】

1 現在の課題

これからの学校においては、生徒がキャリア・カウンセリングを受けることのできる体制の整備が必要となると考えられることから、より専門的な知識と経験をもった人材の配置とともに、教員が研修を積むことによって、ある程度までのカウンセリングを校内で行うことができるようにすることが課題である。

2 今後の取組

今後は、教員がキャリア・カウンセラーとして対応していくことができる体制づくりとともに個々の教員のスキルの向上を進めていきたい。

そのためには、教員がCAPの時間等で性格・適性テストを積極的に活用するとともにその分析をもとに個人面談を行うシステムを作っていきたい。

その他の取組

平成19、20年度の卒業生に対し、就職後の状況の把握のために約80名に対してアンケートを郵送し、回答を依頼した。またアンケートが回収できなかった者については、就職先の企業を訪問しての状況把握を行った。この調査により、就職して1年以内に離職した者は、19年度の卒業生では28%、20年度は20%であった。

アンケートの回収率は約30%であったが、その中で窺えることは、仕事を継続できたり、できなかったりする理由の多くが職場での人間関係の善し悪しによるものであった。

このことはCAPの時間等で取り上げており、人間関係形成能力の重要性を生徒が自覚するための生きた資料となっている。



朝の読書

まとめと今後に向けた取組

高等学校においては、これまで行ってきた教育活動をキャリア教育という視点で整理する必要があると考えている。生徒のキャリア育成に対して、様々なセクションがばらばらに取り組むのではなく、学校の組織的な取組として体系付けられたものとしなければならない。

調査研究の推進校として取り組んだ本校の3年間は、手探りの状態からスタートであったが、それまでの教育活動で積み上げられたノウハウの下に、生徒の反応を見ながら試行錯誤を繰り返す中で、本校としての形を徐々に作り上げてきた。その結果、生徒の進路意識も徐々にではあるが高まりを見せており、教員の取組意欲も向上するなどの成果も出てきている。

こうしてできた取組の形は、本校の生徒たちにとっての、一つのキャリア教育の形であるが、今後、入学してくる生徒たちの変化などに合わせてさらに改善を進め、校内での無理のない実施形態や方法など、より良い形を求めていきたいと考えている。

今後の課題は、生徒一人ひとりが学校生活の中で、自分の将来を見据えた活動に、自主的、積極的に取り組めることが望ましいが、そうした活動さえも満足にできない生徒も出てくることから、できれば学校が提案できるような具体的な活動のメニューなどを整備することもあるのではないかと考えている。

また、生徒たちの活動を適切に支援していくためには、教員がキャリア・カウンセラーとして生徒に的確な指導を行う必要があり、そのためのカウンセリングの技術や進路についての専門的な知識などの習得に努めながら、価値観の多様化している様々な生徒たちに積極的にかかわっていく姿勢と覚悟をもつ必要がある。

最後に、学力に課題があると考えられる生徒たちにとって最も大切なことは、基礎学力を定着させることであり、それがキャリア教育の基盤をつくることになる。こうした基礎学力の定着の取組はキャリア教育を行っていく上での大前提になると考えている。

山口県立田部高等学校 キャリア教育全体計画

指定校研究主題

- ・キャリア教育の在り方に関する効果的な指導内容・指導方法の充実・改善
- ・キャリア教育の専門的知識を有する外部人材の活用の在り方

重点目標	教育方針	関連する教育法規等
・自己教育力の育成 ・学習意欲の高揚 ・キャリア教育の充実 ・豊かな人間性の育成 ・基本的生活習慣の確立 ・健康・体力の増進 ・人権教育の推進 ・国際理解・情報教育の推進 ・環境教育の推進 ・家庭・地域社会との連携	生徒一人ひとりの特長と地域の教育力を生かし、個性や能力の伸張と徳性の涵養に努め、たくましく調和のとれた人間性を育み、自己実現に向けて自ら主体的に学び社会に貢献する有為な人材の育成を図る。	・教育基本法 ・学校教育法 ・「児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観をそだてるために」(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議) ・平成19年度山口県教育ビジョン推進の手引き ・キャリア教育学習プログラム

生徒につけさせたい力

○人間関係形成能力 ○情報活用能力 ○将来設計能力 ○意思決定能力	・望ましい人間関係を構築し、互いを尊重しながら自己を高めていく力 ・進路選択のために多面的・多角的に情報を収集し生かす力 ・自己の能力適性を伸張し、将来を設計する力 ・目標の実現に向け学習を深め、積極的に自己実現を図る力
--	---

各学年の指導目標

1年	2年	3年
・新しい環境の中で望ましい人間関係を構築する ・学習活動を通して自己の能力適性について理解と伸張を図る ・様々な進路情報の収集を通して進路選択をしていく力を育む	・他者の価値観や個性を受容する豊かな心を育む ・インターンシップや上級学校体験など様々な学習活動を通して勤労観・職業観を育成する ・自己の職業的な能力適性を理解し、将来設計に基づき進路決定を図る	・進路目標の実現に向けて、具体的な目標と課題を設定する ・目標達成に向けて計画的に取り組む ・職業・勤労に対する理解・認識を深め、社会人として必要な資質を養う

各教科・領域等における指導内容

各教科	総合的な学習の時間	特別活動
・各教科の様々な題材を通して人間としての在り方、生き方を考え生きる力を育む ・基礎学力の向上を図り、生涯を通して学ぶ意欲をつける	・課題を発見し、その解決に向けて主体的に取り組む力をつける ・情報を収集し、必要なものを適切に選択できる力をつける ・自分の将来に展望を持ち、目標に向かって計画的に努力する力をつける	・就労体験や奉仕作業等を通して勤労観、職業観を養う ・ホームルーム活動、学校行事、生徒会行事などを通してコミュニケーション能力、人間関係力を高めるとともに、集団や社会の一員として将来の生活を築く基礎をつくり、自己の能力や適性を生かす力を培う

校内推進体制

- ・進路指導課を中心にキャリア教育を教職員全体で行う
- ・キャリア教育推進委員会を設置し「総合的な学習の時間」のキャリア教育への活用を推進する

家庭・地域・企業との連携

- ・広報活動や保護者懇談会、PTA総会など様々な機会を通してキャリア教育の具体的な内容を説明し、家庭との一層の連携を図る
- ・インターンシップ、職場見学等を通して、地域の教育力を活用する
- ・さまざまな角度から地域にある教育力を柔軟に活用し、生徒のキャリアアップにつなげる

異校種間の連携

- ・小中学校でのキャリア教育の実践について情報を収集し、高校での実践に活用する
- ・高校での実践を小中学校に紹介し、情報交換を行う

田部高等学校「21年度指導計画」

学年	月	学校行事等	生徒の主な活動				関連・連携する事項
			総合的な学習の時間(CAP)	ホームルーム活動	その他		
1 学年 情報の収集と自己理解	4	入学式 新入生オリエンテーション	「高校生活を知る」	高校生活ガイダンス 進路希望調査	進路指導委員会 教員対象のキャリア研修	キ ャ リ ア 教 育 推 進 委 員 会	
	5	強歩大会 進路のしおり発行	進路ガイダンス	人間関係づくり 面接週間	キャリア教育説明会(保護者)		
	6	科目ガイダンス 文化祭	「自己理解を進める」 「進路目標を考える」	ボランティア活動	情報モラル講習会		
	7	基礎力診断テスト 保護者面談					
	8	夏のボランティア活動(総・福) 働く人の声取材(普)			オープンキャンパス参加 教員対象のキャリア研修		
	9	体育大会					
	10	働く人の声取材(総)	「働くを知る」 キャリア教育講演会 「仕事を知る」 職場訪問	コミュニケーション力向上1 人権学習 薬物乱用防止教室 性教育講演会 環境教育講演会 面接週間			
	11	文化講演会					
	12	スポーツフェスタ	国際理解教育講演会				
	1		「進路を考える」 先輩の話を聞く会	「先輩の選んだ進路」 進路希望調査			
	2	基礎力診断テスト マラソン大会			進路指導委員会 マナー講習会		
	3		出前講義・小論文指導1				
2 学年 キャリア育成と進路目標設定	4			進路希望調査 人間関係づくり 面接週間	進路指導委員会 教員対象のキャリア研修	キ ャ リ ア 教 育 推 進 委 員 会	
	5	強歩大会 進路のしおり発行	「自己理解を深める」 進路ガイダンス	ボランティア活動	キャリア教育説明会(保護者)		
	6	科目ガイダンス 文化祭	「先輩の進路を知る」 「働くを学ぶ」		情報モラル講習会		
	7	基礎力診断テスト 保護者面談			オープンキャンパス参加		
	8	インターンシップ(普)、施設実習(総・福) 夏のボランティア活動(総・福)	「仕事を学ぶ」		教員対象のキャリア研修		
	9	体育大会	「進路を決める」	インターンシップ体験発表 人権学習 薬物乱用防止教室			
	10		キャリア教育講演会	環境教育講演会 面接週間	人権研修		
	11	文化講演会	小論文指導2				
	12	スポーツフェスタ					
	1	修学旅行					
	2	基礎力診断テスト マラソン大会	「社会人に聞く」 先輩の話を聞く会 「目標を確認する」	進路希望調査	就職ガイダンス 進路指導委員会 マナー講習会		
	3		出前講義・小論文指導3				
3 学年 社会理解と自己実現	4		「自分の進路を知る」	進路希望調査 人間関係づくり 面接週間	進路指導委員会 教員対象のキャリア研修	キ ャ リ ア 教 育 推 進 委 員 会	
	5	強歩大会 進路のしおり発行	進路ガイダンス 「受験の準備をする」	ボランティア活動 推薦入試説明会(就職・進学)	進学ガイダンス キャリア教育説明会(保護者)		
	6	文化祭			情報モラル講習会		
	7	就職説明会 求人公開			オープンキャンパス参加		
	8	三者面談・就職希望調査・就職支援研修 ホームヘルパー同行訪問実習(総・福)			就職ガイダンス 応募前職場見学 教員対象のキャリア研修		
	9	推薦入試希望調査 体育大会 就職面接練習・就職選考開始	「小論文を知ろう」 「面接練習」 キャリア教育講演会	コミュニケーション力向上3 人権学習 薬物乱用防止教室 環境教育講演会	進路指導委員会 人権研修 推薦合格者への指導(就職・進学)		
	10	進学面接練習 推薦入試開始					
	11	文化講演会	社会人講話				
	12	スポーツフェスタ					
	1	センター試験	「これからの自分を考える」 下級生と語る会				
	2						
	3	卒業式			進路指導委員会		

普・・・普通科 総・・・総合生活科 「」は進路学習でのテーマ
総・福・・・総合生活科・生活福祉コース